

第2の大谷翔平選手育成プロジェクト

～障害対策と高身長アスリート育成の視点から～

西別府病院スポーツ医学センター野球医学科

馬見塚尚孝

これまでのスポーツ選手育成の多くは、ジュニア期から一つの競技に特化し、それぞれの世代の指導者別の指導方針で育成されるとともに、各世代で結果を出すことを最優先してきた。その結果、スポーツ障害の増加や重症化、ドロップアウト増加、成長余地の少ない育成などが問題点として指摘されている。

一方、カナダでは long term athlete development (LTAD) というジュニア期から引退後までの選手育成一貫プログラムが策定され、プログラムに応じた指導がなされるようコーチ育成も同時に行われている。また日本でも、アスリートのタレント発掘・育成プロジェクトが開始され、タレントの発掘、多種目の経験と選手による種目選択、ハイレベルコーチによる指導などが試みられている。これらのタレント発掘・育成プロジェクトの課題として、早期成熟者を選抜している可能性、情報系パフォーマンス前提を評価できていないこと、選手を選抜する手法などが指摘されている。

さらに、これまでは「身長の高い選手を選抜する」手法でタレント発掘してきたが、一歩踏み込んで高身長アスリートを育成する知見も明らかになりつつある。

そこで本講演では、スポーツの選手育成の現状、知っておきたいスポーツ障害の医科学、これまで取り組んだ障害予防と育成を両立する介入研究、高身長アスリート育成の課題と、この課題を解決することを目的とした第2の大谷翔平選手を育成するために行っているプロジェクトの概要を議論する。